

令和6年度

保育協議会だより

No. 2



秋田市保育協議会

「今年度の振り返り」と「今後に向けての」



秋田保育協議会 会長

あおぞらなないろ園 園長 上村清正

秋田市保育協議会会員の皆様、日頃より当会の運営及び取り組み等に関しまして、ご理解とご協力を頂いております事に深くお礼申し上げます。本当にありがとうございます。

今年度、「会長代行」から皆様の承認を得まして「会長」として対応してまいりました一年、コロナ対応などの社会制限が無くなり、会員の皆様と一緒に様々な取り組みを行ってきたと振り返っております。

以前より継続して行ってきました「行政」や「市議会議員」と話し合いの場を持つことも、次年度の予算検討に反映できるよう年度の始め5月～6月を目途に行うようにいたしました。年度の早い段階で当協議会の「考え」や「思い」そして「現場における状況」の『声』をしっかりとお伝えする事により、「行政」における施策や予算を検討する際に、また「市議会」においては施策及び予算の精査が行われる際に反映して欲しいと考え実施してきたものであります。施設長部会内の委員会活動も様々行われ、子育てイベントの開催、施設長としての資質向上に関する研修の実施、「新春のつどい」の開催、協議会の情報発信、施設運営に寄与するアンケートの実施など「一人一役」での取り組みにより、協議会会員皆様のプラスになる取り組みがなされたように感じております。こうした活動を次年度におきましても継続して実施していきたいと考えております。

またこうした毎年の取り組みの他に、今年度は「次期市長選への対応」、「人事院勧告に伴う『冷暖房費加算』の級地変更への対応」など、普段は無い事案に関しましても非常に重要であると捉え、これらの「対応」も役員会にて協議を重ねつつ皆様へお伝えしご協力いただきながら進めてまいりました。上記対応は、「事務的」にも「実働的」にも大変なものとなりましたが、会員の皆様や施設の運営に寄与するものとして尽力してきた次第であります。

「今後に向けての抱負」をお話しするにあたり、皆様にご理解いただきたいことがございます。私は秋田市保育協議会の会長職を仰せつかり、多くの事案への対応や検討・協議・決定等を役員や会員の皆様と一緒に進めてまいりました。しかしながら、一人の人間としては不完全なところも多く、時に判断に迷い、思い込み等により皆様へ「間違った説明」をする事もあるかと思っております。私自身がどのように評価されても構いませんが、当協議会の皆様が不利益な結果を被ることが無いよう、必要な対応を皆様にお声掛けいただきながら会員の皆様と共に考え行動していきたいと考えておりますので、気になることがございましたらお声がけいただければと思います。

「秋田市保育協議会」の活動や取り組みが会員皆様のご理解とご協力を賜りながら着実に、物事を進められていく事で、秋田市で成長していく子ども達やその保護者、そして保育

現場で頑張る保育関係者、皆様すべての「笑顔」を増やしていく事が出来ればと考えております。

どうか宜しくお願い致します。

「遠くのクマからとなりのクマに」

秋田市岩見三内保育所
所長 岡部 亜希子

新型コロナウイルス感染症が収まりを見せ、少しずつ以前のような活動や遊びを再開しようとしていた矢先に、熊の問題に直面することとなりました。一昨年来、熊の出没が激増し、更には冬眠しない熊も相当数確認されていることを受け、保育所の子も達の活動等に際し、苦慮する日々が続いています。

当保育所は、太平山のふもとに立地しており、豊かな自然に包まれています。例年であれば、散歩を通して地域の方との交流が生まれたりするのですが、熊との遭遇が懸念されるため、散歩はほぼできず、地域との交流も思うようにできていない状況にあります。

しかし、全ての園外行事を「できない」で終らせたのでは、貴重な体験を何一つ得ないまま卒園することになってしまうため、今年度、どうすればできるようになるのか、職員間で検討を重ねました。結果、りんご狩りを一例に挙げると、下見を通じて、りんご園の方とともに現地での安全対策を考え、電気柵を稼働してもらうこと、その電気柵および周囲の状況を監視する職員を3人配置することで了承をいただき、無事に実施することができました。どうしても実施できないことはあると思いますが、どうすればできるようになるのかを考えることの重要性を実感した次第です。

このほか、当保育所で行っている熊対策について、以下に紹介いたします。

① 情報収集

- ・「ツキノワグマ等情報マップシステム（クマダス）」の利用
- ・近隣の小中学校や保護者、職員、地域の方等からの目撃情報
- ・新聞等による情報

② 情報発信・情報共有

- ・収集した情報に基づき、保護者や職員へメール、玄関掲示等による情報発信と情報共有を行う。

③ 活動時の安全対策

- ・園庭で遊ぶ際は、必ず熊の監視役をつける。
- ・監視役を確保できないときは、園庭に出ない。
- ・監視役は、「熊撃退スプレー」、「電子ホイッスル」および「火薬玉で音が鳴る鉄砲」の安全グッズを持参して園庭に出るものとし、子ども達が外に出る前と遊んでいる最中に、定期的な音を出し存在アピールをする。
- ・避難用リュックには、常時「熊よけ鈴」をつける。

④ 周囲の安全対策

- ・年に1～2回、保育所の周囲の茂みの草刈りを依頼し、見通しを良くしている。

春以降は、このような対策を取らなくてもいいように、熊にはどうか遠い深山で過ごしてほしいと願わずにはられません。



「熊の出没を身近なことと考えるために」

秋田市雄和中央保育所
所長 多可 真紀

当保育所の園庭に熊が出没したのは令和5年5月のことです。その日は雨が降っていて、子ども達はホールで遊んでいたため熊を見ることはありませんでしたが、園庭を走って行く熊を窓から目撃した職員は、動く熊の勢いに物凄く怖さを感じたそうです。その後1週間は、外での遊びを控えざるを得なくなってしまう、晴れているのに外に出られない子ども達の残念そうな様子を目の当たりにして、安全に戸外で遊んだり活動したりするために今後どうすべきか、熊対策を職員全員で改めて考え、様々な方法を話し合っって実行し、今に至ります。

自然豊かな地域ゆえに、以前から熊が出たことを想定した避難訓練を行ってききましたが、実際に熊が出没したことで、熊がいつ出るかわからないことを普段から子ども達に頻繁に知らせ、保育所で行っている熊対策やそれを行う理由についても伝えるようになりました。熊が出没することの多い地域だということ子どもたちも知り、自ら気をつけようとする必要だと感じています。

園庭は広く、木々に囲まれているため、熊対策として園庭全体に聞こえるように音楽を流し、熊がいないか周りの様子だけを監視する監視員2人が必ず外に立つようになりました。園庭での遊びだけでなく、夏の水遊びやプール遊び、冬の雪遊びなど、季節の遊びも楽しめるようにするための熊対策を講じるなど、安全に遊ぶために必要なことを行っています。

また、保護者や地域（近隣住民の方たち）、外部機関と連携し、熊の目撃情報を提供してもらえるような関係づくりを行っています。

熊の行動場所が本来の山の中に戻ってくれることを祈りつつ、今後も春夏秋冬の熊対策をアップデートしていきながら、自然の中での遊びを楽しめるようにしていきたいと思えます。



監視員は、子ども達が外に出る直前に火薬の鉄砲を鳴らします。子ども達が遊んでいる間は、熊がいないか周りの様子だけを集中して見ることに徹しています。



←監視をする時は、火薬の鉄砲と電子ホイッスル、熊スプレーを常に携帯しています。

近隣で熊が出没した際、送迎の保護者に駐車場から保育所玄関まで注意して歩いてきてもらうよう保育所の入口に『近隣で熊出没注意!!』の立て看板を付けることにしています。→



「いつも頭の片隅と視線の先にはクマ」

幼保連携型認定こども園ふじ
園長 佐川ひとみ

園長5年目を迎えコロナ禍とともに園長を務めてきてようやくコロナ前の生活を取り戻すことができると思った矢先の「クマ騒動」。正直なところ溜息さえでませんでした。どのようにして防ぐかと考えると「あー防ぎようがないな。」とあきらめの気持しかありませんでした。どうしても熊には勝てません。熊出没警報が出ている限りは、園周辺の散歩は禁止、近くで目撃情報の連絡が来た際は園庭で遊ぶことさえ禁止といった判断をせざるを得ませんでした。

熊の習性について地域の人たちと専門家から講義をうけたり、最寄りの警察署の方から避難方法を教えていただいたりと、園ができる限りの情報や対処方法はマニュアルとしました。

状況を判断して園庭での遊びができる日は周りの状況を監視しながら遊びを楽しみました。子ども達だけではなく早番遅番の職員の業務手順を変更し出退勤する際、周囲へ気を配る事など、とにかく安全を第一として考えました。

熊に遭遇したらどうするか。複数子ども達を引率したときに安全な回避ができるかどうか熊スプレーの練習をしました。様々なことを考慮して熊に遭遇するような場所に行かないことが一番の安全策だと認識せざるを得ませんでした。

また別の考え方をしてみました。熊との共存です。しかし、そのような考えは全く現実的ではありません。

クマ問題は今や社会問題として取り上げられるべきことのひとつです。園における子ども達の遊びに大きな影を落としているのではないかと暗い気持ちになってしまいます。子ども達の安全第一を考えながら、「頭の片隅にいつもクマ」を意識しながら、子どもの育ちを考えた保育を工夫し実践するしかないのかと思います。

難しいことではあるとは思いますが、今後もたくさんの情報交換を行うことができるとありがたいと思います。



研修委員会活動報告

研修委員会委員長

秋田駅東保育園 園長 齋藤純子

今年度も研修希望のアンケートを参考に年二回の開催を予定しました。「防災」で秋田県内外でご活躍の及川先生と調整がつき実施できました。また、会員から「新春のつどい」の希望が多かったので、多方面でご活躍の素敵な菅原先生をご紹介いただき研修会と懇親会の両方実施できました。保育士の参加もあり充実した内容になりました。ご報告いたします。

【第1回施設長部会研修会】令和6年12月10日（火）

講演 「地域の災害リスクを知り防災意識を高める」

講師 日本赤十字秋田短期大学

介護福祉学科講師 及川真一 氏

内容抜粋) 保育園だけでは災害時に子どもの命を守ることはなかなか難しい。防災を日常にして一人一人（職員、子ども、保護者、地域、仲間）が理解し合い、準備することで防災力を高めていくことが重要である。参加者は盛りだくさんの防災のヒントをいただき、園に持ち帰り参考にできる内容で勉強になった。



【第2回施設長部会研修会：新春のつどい】令和7年1月17日（金）

講演 「あなたの素敵な声と笑顔を大切な方へ届けよう

～人生が輝く第一印象アップ術」

講師 スタジオ☆くみこ 菅原久美子 氏

内容抜粋) サービス等の現場では第一印象が重要。参加者全員が立ち上がり、気持ちをこめて声を出し、笑顔を作り、挨拶をするなど実際の動きのある体験をした。次の日からハッピーになるために自らが心掛けることができる研修だった。懇親会では講師のミニコンサートからスタートして美声に魅了され、ホテルの食事に舌鼓を打ち会話がはずみ、豊かな時間を過ごすことができました。ご協力ありがとうございました。



振り返りと次年度の抱負

子育て支援委員会

こどものいえ保育園 園長 畑田温子

子育て支援委員会は7月27日（土）の県立武道館で行われた「すこやか秋田」の出席と11月11日（土）の「親子であそぼう」に参加しました。振り返りとして、毎年遊学舎で行われている「親子であそぼう」イベントは天気はかなり左右されるので遊学舎以外の場所での開催も考えましたが、駐車場が広い事と場所がわかりやすい等の点で今年も遊学舎での開催となりました。

当日は大変気温が低く小雨も降る中決行だったため参加人数が少なく3組しかいなかったのが寂しいかな？と思いましたが、親子で沢山遊べる遊具や入所関係のお話、離乳食についてのお話や絵本の読み聞かせなど盛りだくさんで、保護者の皆様から「とても楽しかったので来年もまた来たいです。」と言っていただき大変嬉しかったです。

そして昨年の子育て支援委員会の委員長だった山田先生が昨年に引き続きマジックを披露してくれました。カバンの中から素敵なマジックの道具を次々とし、子ども達も目を白黒させて長時間に渡るマジックショーを楽しんでおりました。

来年度は時期を早めて天気の良い季節を選んで行ってはどうか？と思いました。

可愛い親子の笑顔が見られて大変嬉しい気持ちになりましたし、沢山の笑顔がまた見たいです。



保育運営委員会活動報告

保育運営委員会

こひつじ保育園 園長 福田恵嗣

○令和6年度 実施報告

正副委員会から意見交換会（懇談）の開催準備を進めるようにとの指示があり、秋水会と自民党との意見交換会を別々に行う形式で資料の準備を進めました。6月7日に市議会議員の自民党（会長：小野寺誠氏）8名と懇談会を開催しました。会では、主に障がいをもつ可能性のある子の入所について意見交換することができました。最終的に10年以上変わらなかった「保育体制強化事業」を、今年度は変化または進歩を期待させてくれるような発言が議員からありました。6月14日も同じ内容で市議会議員の秋水会（会長：小木田喜美雄氏）8名と懇談会を開催し会を経て、子ども育成課に「要望書」を提出する流れを作ることができました。ご多忙の中、施設長の皆様には参加いただき感謝申し上げます。

各施設長が主に園運営を担っていることから、運営して行く上での悩みや他園ではどのようにしているのか聞きにくい事を知りたいという意見から、アンケートを実施することにしました。委員間で数カ月かけて設問内容について考え1月にアンケートが完成し、2月に回答の取りまとめができました。各施設で参考にしていただくと共に、運営委員会で今後の活動の資料として活用させていただきます。

資料作成や開催に向けた準備や積極的な働きなどが十分に出来たか猛省しておりますが、一年を振り返り各施設の皆様からのご協力を得て、活動遂行できましたことに感謝御礼申し上げます。

○令和7年度の活動予定（事業計画）

保育業界を取り巻く諸課題・解決に向けテーマを出し、各保育園の運営にあたり具体的に円滑な施策が打ち出せるような「勉強会」等を開催したいです。併せて秋田市議会議員と保育課題を共有するための懇談会等に繋げることも早急に検討していきます。アンケートの結果についての検討。市長選もあることから新しい市政にも注目して保育運営に資するテーマを検討していきます。



広報委員会 今年度の振り返り

広報委員会

幼保連携型認定こども園ふじ

園長 佐川ひとみ

広報委員会の今年度の主な活動は、昨年引き続き秋田市保育協議会だよりの発行とホームページの改良の二つでした。保育協会だよりの発行については前期と後期各一回ずつです。

前期に関しては、例年通り「新施設長の紹介」で構成し発行いたしました。後期に関しては、クマの出没に関する保育の在り方について、対応された施設の園長先生に寄稿をお願いいたしました。施設長部会などで情報交換等も行っておりましたが、対自然への引き続きの対応や子どもの育ちを考えての保育の実践について寄稿していただきました。

ホームページに関しては、保育協議会会員専用ページの作成を考えました。このことに対してアンケートもとりました。アンケートにご協力していただきありがとうございました。結果として、会員専用ページの制作には至っておりません。理由としては、広報委員会として明確な必要性を示すことができなかつたこと、予算組していなかつたこと等があります。アンケートを行った結果として、より多くの会員の先生方にホームページを閲覧していただくことに繋がりました。少しずつではありますが会員自ら、よりホームページを活用していくことが重要だと実感しました。

今後は益々インターネットの活用度が高まります。これからの園選びの手助けとなるようなホームページになると良いと考えます。

2年間の反省として、より積極的な情報発信ができればよかったこと、秋田市保育協議会の存在や活動をもっと知っていただくことができるような工夫ができればよかったといった点があげられました。

2年間広報委員会の活動にご理解とご協力をいただきありがとうございました。

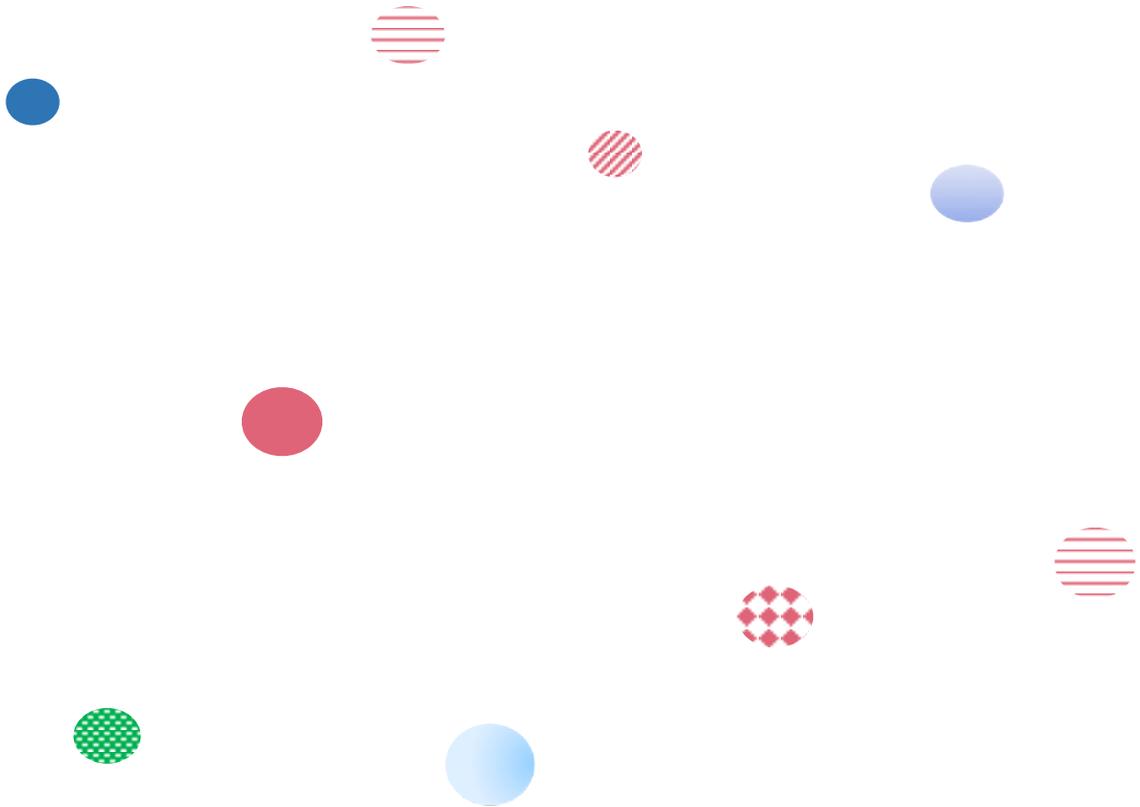
編集後記

今期の広報委員としての業務・役割も、今回の〔令和7年3月発行：令和6年度保育協議会だよりNo.2〕の発行と共に終えることとなりますが、今期、当委員会からの依頼により寄稿いただいた先生方、また共に広報委員業務に携わりご協力をいただいた先生方には本当に感謝申し上げます。

今年度は定期発行をしている協議会だよりに加え、ホームページの内容や新たな取り組み検討を広報委員会では協議を重ねて改善に努めてまいりました。特にホームページの内容充実については、更なる情報共有・提供のツールとし活用していけるよう次年度へ提案出来るところまでまとめる事が出来ました。どうか来期、広報委員会として携わられる先生方にはご難儀をお掛けいたしますが『実現に繋げていただきますよう』お願いしたいものです。

2年間、広報委員会の委員としてご協力いただいた先生方には大変ご難儀をおかけいたしました。本当にありがとうございました。

広報委員会 副委員長
あおぞら幼保連携型認定こども園
園長 上村清吾



令和7年3月

発行